

アクセシビリティモデルルーム

1. 目的 難病患者や障がい者、当事者を支える家族の方、医療・福祉・教育関係者にアクセシビリティ機器の使い勝手や効果を直接触れて体感してもらうことで、アクセシビリティ機器を活用した表現方法があることを知ってもらうことを目的として開催します。

また、地域全体にアクセシビリティ機器の活用や気持ちを伝える表現方法はひとつではないことが広まることで、誰もがより自由で自立した生活を送ることができる社会の実現を図ることを目的として開催します。

2. 主催 名寄市基幹相談支援センター

3. 協力 東京慈恵会医科大学 “アクセシビリティサポートセンター”
（アクセシビリティサポートセンターは、以下 ASC と記載）

特定非営利活動法人 iCare ほっかいどう

4. 日時 令和7年10月26～27日（日・月）10：00～15：00

5. 場所 名寄市立大学 図書館1階 会議室（名寄市西4条北8丁目）
※駐車場は2号館（旧恵陵館／国道40号側）前をご利用ください。

6. 内容 アクセシビリティ機器を使用している当事者宅を再現。各機器の操作方法について解説および実際に機器を操作することができる。
また、アクセシビリティ機器の導入等に関する相談も承っております（相談を希望される場合は、前日までにお問い合わせください）。

<展示予定機器>

・指伝話（意思伝達装置）

→病気や障がいで自分の声が話すことが難しい・体を動かすことが難しい方などが、日常生活をより快適に過ごしていただけるように開発された iPad で使うコミュニケーションアプリ



・miyasuku（意思伝達装置・視線入力装置）

→ALS・SMA・筋ジストロフィー等の重度身体障害者が、視線やスイッチを活用してパソコンを操作し、日常会話や勉強・仕事を行う等、QOL 向上を実現する。



• eeyes（意思伝達装置・視線入力装置）

→指や目の動きなど小さい身体動作を使って自分の意思を伝えることができる。自分の気持ちを伝えるために言葉をつむぐだけでなく豊富な絵文字を使用することでより楽に行うことができる。



• TD Pilot（iPadの視線入力装置）

→iPad組込み型の視線入力装置。世界トップレベルの視線入力装置が搭載され、これまでiPadで行っていたことが視線でできるようになります。さらに入力方法は視線やスイッチなど複数の入力方法から選ぶことができる。



• ファインチャット（意思伝達装置）

• 各種スイッチ

• 透明文字盤

など

- | | |
|---------|---|
| 7. 参加対象 | どなたでも参加いただけます。 |
| 8. 参加費 | 無料 |
| 9. 申込み | 不要 |
| 11. その他 | 10月25日（土）にはアクセシビリティに関する講演会を開催します。
モデルルームの見学と併せて講演会の参加もお待ちしております。 |

【お問合せ・お申込先】

名寄市健康福祉部 基幹相談支援センター
障がい相談支援係

担当：中嶋 亮太

電話：01654-3-2111（内線 3218）

F A X：01654-9-2089

E-mail:ny-kikansoudan@city.nayoro.lg.jp